政治・経済 | AERA dot. #国際問題 #ウラジーミル・プーチン 2022/04/14 17:00

「プーチンはこれでは終わらない。さらに先に進む」 元側近が証言した"暴君"の実像とは

まさか本当に全面戦争を始めるとは

PRESIDENT Online

「AERA dot.」

ロシアのウクライナ侵攻が始まってから2週間以上が経過した。停戦協議はいまだ進まず、戦闘の長期化が懸念されているが、世界が注目するのはプーチン大統領が何を考え、これからどのような動きをするかということだろう。『プーチンの実像』（朝日新聞出版）の著者の一人である朝日新聞論説委員・駒木明義氏は、プーチン大統領を直接知る多くの人物を取材し、重要な証言を引き出してきた。ウクライナ侵攻前、駒木氏が取材した元側近は、今回の事態を予測するかのような証言をしていたという。駒木氏が緊急寄稿した。

ロシアのプーチン大統領

全ての画像を見る（3枚）

「まさか本当に全面戦争を始めるとは」

ロシアがウクライナ侵攻に踏み切った2月24日、私はとても信じられない気持ちで一杯でした。同時に、今から7年前にこの事態を正確に予言した人物のことを思い出したのです。

その名は、アンドレイ・イラリオノフ氏（60）。プーチン氏がロシアの大統領に就任した2000年から5年間、経済顧問を務めた人物です。

当時の彼の主な仕事は、主要国首脳会議（当時はロシアも含めて「G8」と呼ばれていました）で、プーチン氏の代理として、事前の交渉や合意文書のとりまとめにあたる「シェルパ」と呼ばれる役どころです。プーチン氏からの信頼も厚い側近でした。

私がイラリオノフ氏に会ったのは、2014年10月のこと。場所は、米国のワシントンにあるシンクタンクでした。このときまでに、イラリオノフ氏は完全にプーチン氏から離反し、最も厳しい批判者に転じていました。

話は当然、プーチン氏が同年の3月にウクライナのクリミア半島の併合を一方的に宣言したことに及びました。そのときに、彼は私に向かってこう断言したのです。

「侵略者は誰かに止められない限り、侵略を続けることを歴史が示している。ナチスドイツも、ソ連も、あなたには悪いがかつての日本もそうだった」
「プーチンはこれでは終わらない。さらに先に進む」
「いつ、どこに向かって、どんな方法で進むかは予見できない。しかし、彼がここで止まることを示すような歴史の前例は一つもない」

「そこに奪うものがあるから、奪う」

プーチン大統領の元経済顧問のアンドレイ・イラリオノフ氏。2014年10月、ワシントン

これこそが、今回プーチン氏がウクライナへの全面侵攻を始めたときに私が思い出した言葉でした。彼の予言は的中してしまったのです。

正直に言えば、8年前の私は、彼の言葉にはまだ半信半疑でした。

プーチン氏がウクライナのクリミア半島を占領した理由として当時取り沙汰されていたのは、第1にかつてのロシア領を取り戻すことで国内の求心力を高めること、第2にウクライナとの紛争状態を作り出すことで、ウクライナが北大西洋条約機構（NATO）に加盟できないようにすること――といったところでした。

しかしイラリオノフ氏は、こうした説を一蹴しました。

「経済的理由、政治的理由、安全保障上の配慮、地政学的な理由で説明することはできない。すべてNATOが原因？　そんなのは、ばかげた話だ！」

イラリオノフ氏によると、プーチン氏を突き動かしているのは「そこに何か奪うものがあるから、奪う」という理屈であり、「それがどんなに高くつくかよりも、やったこと自体が重要」なのだという。

突然権力と富を手に入れたものは「理性に従って行動するのではなく、子供時代のコンプレックスに突き動かされて振る舞うようになる」。その結果として、プーチン氏の場合は「帝国をつくりだそうとしているように見える」というのがイラリオノフ氏の見立てでした。

今回のウクライナ攻撃をめぐって、私たちはさまざまな理由で説明しようとしています。8年前にも言われたNATO拡大阻止。2024年の大統領選を視野に、求心力を高めようとしている。ソ連の再建。しかし、イラリオノフ氏の言うように、その根底にあるものが理性ではなく、プーチン氏自身の心の奥底に秘められた情念のようなものだとすれば、今回の戦争が最後ではないのかもしれない。

そして、イラリオノフ氏が列挙した「侵略者」たるナチスドイツ、ソ連、戦前日本がたどった運命を思うとき、非常に暗い気持ちにならざるを得ません。

証言者によって異なるプーチン像

イラリオノフ氏は、プーチン氏がクリミアを占領した後に、私たちが取材した20人以上の1人にすぎません。取材相手の共通点はただ一つ。プーチン氏と身近に接したことがある、ということです。

旧国家保安委員会（KGB）の同僚、サンクトペテルブルクの改革派市長の右腕だったときのプーチン氏を知る人、モスクワで破竹の出世を遂げる様子を間近で見ていた人、日本の友人たち……彼らが語るプーチン氏の人間像は、驚くほど多様で「これが同じ人物のことだろうか」と思わせるほどです。

プーチン氏は本当に謎が多い人物です。「なぜNATOに敵意を向けるのか」「無名の官僚から驚異の出世を遂げた秘密はなにか」「蛮勇を振るう性格はいつからか」「病的とも言える被害者意識の起源は」――こうした疑問を一つ一つひもといていくことが、今回のウクライナ侵攻の動機を知る手がかりになると思います。私たちが取材した側近の証言からは、その一端が垣間見えるはずです。（朝日新聞論説委員・駒木明義）

朝日新聞国際報道部、駒木明義、吉田美智子、梅原季哉『プーチンの実像』（朝日新聞出版）

「AERA dot.」

AERA dot.は『AERA』『週刊朝日』に掲載された話題を、分かりやすくまとめた記事をメインコンテンツにしています。2誌の雑誌ジャーナリズムを継承し、時代の「読み方」ニュースの「見方」を提供していくニュースサイトです。

#国際問題 #ウラジーミル・プーチン

プレジデントオンライン > 政治・経済 > AERA dot. > 「プーチンはこれでは終わらない。さらに先に進む」 元側近が証言した"暴君"の実像とは

© PRESIDENT Inc. すべての画像・データについて無断転用・無断転載を禁じます。